

今後の取組みにあたって：知事コメント

総評

- ・大阪が持続的に成長・発展していく上で、一番の源泉となるのは「人」の力であり、将来を担う子どもたちに対する教育は非常に重要。
- ・平成30年度は、学力・体力向上への取組みや英語教育の充実をはじめ、様々な課題を抱えた児童・生徒への支援などに力を入れた。
- ・こうした取組みの成果は徐々に表れているが、学力・体力・いじめの問題などはまだまだ課題が大きいと考えている。
- ・引き続きこれらの諸課題について強力に対策を講じ、教育力の向上に全力で取り組むことにより、豊かな未来を切り拓き、自立した人材をはぐくんでいきたい。

<学力>

- ・学力は、自らの力で社会を生き抜くために重要。学力のさらなる向上に向けて、小中学校では市町村と連携して学力テストなどにより児童・生徒の課題を経年で把握する仕組みを構築し、市町村や学校での授業改善などの取組みを支援していく。高校では、ICT活用力や英語など、これからの時代に必要な力を身につけるための教育をすすめて、広い視野を持って様々な分野で活躍し、積極的にチャレンジする人材を育成していきたい。

<体力>

- ・体力は活動の源であり、子どもが健やかに成長していくための基本的な要素。子どもの体力を様々な視点から幅広く把握するため、小学校段階において市町村と連携の上府独自の体力テストを導入し、その結果を踏まえた指導により、体力向上を図っていきたい。

<いじめ>

- ・吹田市において、いじめを市教育委員会が1年以上放置するという事案が発生した。このような事案を二度と発生させないためには、市町村の教育委員会や教員が、子どもや保護者の気持ちに寄り添いながら、いじめの気づきの感度や対応スキルを高めることが重要。スクールソーシャルワーカーなどの外部人材を活用するなどチーム体制で対応し、いじめの未然防止・早期発見・早期認知を行えるよう支援していく。さらに、大阪府がいじめの最後の砦となるべく、LINE相談などの施策を強力に推進する。

<支援教育>

- ・支援を必要とする子どもは年々増加、多様化していることから、教育環境を充実させることが重要であり、今後新たな知的障がい支援学校の設置や安心して学校に通学できる環境の整備などに力を入れていきたい。
- ・さらに、子ども一人ひとりの自立と社会参加に向け、早期からのキャリア教育を充実させるなど、就労をはじめとした支援を強化していく。

<公立・私立学校の切磋琢磨による大阪の教育力向上>

- ・親の経済事情や家庭の個別事情によって子どもたちの未来が閉ざされ、自らの可能性が追求できない社会であってはならないと考える。全国に先駆けて実施した私立高校授業料無償化を継続し、公私の切磋琢磨により、大阪の教育力を高めていく。